「今の子どもたちは」という言葉は，大人たちが自らの子ども時代と比較し，子どもたちの現状を憂える際に，古くから用いられてきているのではないでしょうか。どの時代においても，大人が子どもたちの行く末を案じ，健やかに，そして望ましい方向へ育って欲しいという願いや思いは共通していると思います。子どもたちの体力や運動能力について述べられている過去の書物や研究をみると，いつの時代においても，体力や運動能力の低下を憂えて，その将来を案じる記述が見られるのも事実です。社会環境の変化は，現代の幼児期にある子どもたちの遊びを取り巻く環境に影響を与え，それに伴って遊びの内容も変わってきています。特に，身体を動かして遊ぶ機会は減る傾向にあり，身体を活発に動かすことによって発達させることのできる能力を，十分に発達させることの出来ない可能性が生じてきています。杉原らの調査によれば，幼児の運動能力の発達は，1980年代の半ばから低下傾向が続いているとされており，まさに「今の子どもたち」の身体活動の減少は，彼らの発育や発達に影響を及ぼしていると言うことができると思います。

平成22年度から始まった柏市幼児共同研究「こころ　からだ　はずむ　柏っ子」は，今年度で4年目を迎えました。今年も，幼児達が活発に身体を動かし，心身共にバランスよく発達することを願って，柏市内の全私立幼稚園，公私立保育園のご協力の下で研究が進められました。

昨年までと同様に，共同研究では「子どもたちの実態の把握」，および「各園の特色を生かした運動遊びへの取り組み」の2点を中心に進められました。「子どもたちの実態の把握」では，運動能力測定，保育中の子ども達の生活に関する質問紙調査，および，運動遊びを中心とした家庭での過ごし方に関する質問紙調査が行われました。その結果，特に今年度は，子どもたちの平日と休日における外遊びの総時間，また外遊びの総時間と運動能力の発達の関係を知ることが出来ました。過去4年間，継続的に調査を実施してきたことによって，子どもたちの生活の仕方と運動能力発達との関係が明らかになり，より活発に身体を動かして遊ぶことのできる環境にあることが，子どもの発達には望ましい影響を与える，ということが確認できたと思います。

次に，「各園の特色を生かした運動遊びの取り組み」では，各園において，それぞれの特色を生かしながら，園児達の実態に合わせた環境づくりへの取り組みを，計画的，継続的に実施していただきました。この4年間の「研究のあゆみ」には，延べ200園での実践が報告されています。この中には，子どもたちが意欲的に運動遊びに取り組むことのできるための指導に関するアイデアやヒントが数多く含まれおり，年々充実した内容となってきていることがうかがえます。

さらに，今年度は新たな取り組みとして，保育現場での運動遊びの指導の充実をはかることを目的とした「運動遊び講習会」を，昨年11月に開催しました。共同研究推進委員である巻石堂さくら保育園の斉藤まり子先生に講師をお願いし，現場に即した具体的な運動遊びの指導内容に関する研修が，熱心なご指導の下で行われました。当日は，多数の先生方が参加されました。講習会における熱心な取り組みや先生方相互の活発な意見交換から，現場の先生方の関心の高さをうかがうことができました。また，小学校からも参加者があり，幼児期から児童期にかけての運動遊びの重要性を再認識する場にもなったと思います。

以上のような成果を上げることができたのは，各園の先生方はじめ共同研究推進委員会の先生方のご協力の賜だと思います。来年度，共同研究は最終年度としての節目を迎えます。この4年間の研究成果をもとに，子どもたちが心身共にバランスよく成長していくための取り組みを継続して行っていくことができるような基礎づくりを，研究の締めくくりの成果としてあげられるよう願っております。微力ながら，私もお手伝いさせて頂きたいと思っております。

聖徳大学大学院・太田繁